

「笑顔のきずな」温もりを届けて 20年

おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN



日本のお手玉の会設立20周年記念大会
第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会開催される。

「ゲーム脳」の命名者・森昭雄医学博士が特別記念講演



●北は福島県から南は沖縄県まで45チームが競い合う

鹿兒島大学名誉教授
日本のお手玉の会鹿兒島お手玉の会会長
山本清洋先生も個人戦に出場
上位入賞を目指し挑戦する。



●ゲーム脳の怖さを語る森教授
シンポジウム同時開催
満員席で立ち見の客で溢れる



●昔の遊びが大切な時



●アルミ箔で立体折り紙を指導



●お手玉と童謡は繋がるものが



●鳴門教育大学名誉教授の山本先生による「ちよんかけごま」の披露はシンポジウムに
笑いの華をそえた。



●団体戦優勝杯を受ける



●団体戦の競技風景

団体戦・一般の部
和歌山のお手玉の会が
初優勝に輝く

第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会
講演会やシンポジウム

「ゲーム脳」の命名者が特別記念講演

脳の発育と創造性を育むお手玉
各分野の専門家がシンポジウムで語る

笑顔を交わす友情の絆を語る

交流会に全国から1700人参加

第17回 全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会

700人が笑顔で互いに腕前を競いあう

長年の業績を称え4氏に「功労賞」が！

続ける大切さが光る。和歌山のお手玉の会

第17回大会「一般の部・団体戦」で初優勝に輝く

各支部での活動紹介 6ヶ所より順に

おてだま支部交流会inおのみち 尾道お手玉フレンド

尼崎のお手玉の会 足尾のお手玉の会

おてだまのポロリヤンを作った大会へ参加

第13回お手玉遊びの集い とうりのお手玉の会

信州日報「徳義に輝く徳義」掲載される

北へ南へフットワーク軽く

めざまし文化イベントも開催

福岡お手玉の会 福岡お手玉の会

北海道で「念願の」第1回札幌お手玉遊び大会

近畿ブロックin和歌山大会を終えて

宮中雲子音楽祭「100年の記憶に刻む」

第15回日本の合唱コンクール

新聞やテレビで多彩に報道

お手玉に関する書籍のお知らせ

第17回大会の記念講演やシンポジウム・競技大会の様相など

DVDが完成

おてだまの指やイベントなどに

おてだまの指やイベントなどに

おてだまの指やイベントなどに

おてだまの指やイベントなどに

おてだまの指やイベントなどに



第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会

第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会は、日本のお手玉の会設立20周年と、新居浜市市制施行75周年の記念事業として、『笑顔のきずな』温もりを届けて20年をテーマに、平成24年9月29日(土)、30日(日)の両日、リーガロイヤルホテル新居浜(新居浜市前田町)で開催しました。

初日は、特別記念講演会とシンポジウムを行い300人が参加し、2日目の投げ玉遊びの競技大会には、小学生の部と一般の部の団体戦、個人戦に延べ700人が参加して、笑顔で技を競い合い交流を深めました。

記念大会ということで、競技の入賞者のほか、長年お手玉遊びの普及活動に貢献のあった4人に「功労賞」や、2団体1個人への「特別賞」が、日本のお手玉の会長と新居浜市長などから贈られました。

大会をおして、北は福島県、南は沖縄県までの22都府県から2千人のお手玉ファンが集い、盛大な笑顔の祭典となりました。



宮中さんは、「サトウハチロー先生の内弟子として指導を受けました。いまま師の後を継いで、詩の指導をつづけています。いま、子守歌や童謡、わらべ歌が歌われなくなっています。お手玉遊びは、歌を歌いながら遊ぶことで、情操が豊かになります。お手玉歌を歌いながら、お手玉遊びの普及に努めましょう。お母さん方は、子守歌を歌いましょう」と呼びかけました。

岩城さんは、「私は、玩具店の息子です。いまも、おもちゃを扱う商売をしながら、『かしこいおもちゃの与え方』や『絵本 お話わらべ歌』、『子育てのコツ』などの本を出版し、子どもの遊びを高めるかわりや考えながら、広めています。お手玉の普及も、その手段としてとても大切です」と話し、ユーモアを交えながら、パネリストの話題を引き出していました。

フロアからも、ちよんかけごまの普及活動、子どもとお手玉のかかわり、少子高齢化社会の中でお手玉の役割などのほか、地域での活動体験に基づいた発言などが活発に行なわれました。

参加者は、いまこそ、お手玉遊びの普及が大切であることを再認識し、積極的に活動に取り組むことを、確認しあいしました。

ゲーム脳はお手玉で改善できる

「ゲーム脳」の命名者が特別記念講演

特別記念講演会は、「ゲーム脳」の命名者である日本大学大学院教授の森昭雄医学博士が『ゲーム脳はお手玉で改善できる』の演題での講演でした。まず海外の「ネットゲーム中毒症」の少年の様子が、スクリーンに映し出されました。自分の思いどおりに動かないパソコンに向かつて、半狂乱状態でどなり散らすショッキングな映像に、参加者は「オーッ！」と、驚きの声を上げていました。

家具を投げ飛ばし、部屋中のものをひっくり返し、母親に暴力を振るって食って掛かる常軌を逸した行動に、参加者は真剣に見入っていました。ゲームのために必要なお金は、家中の家具を売り払って調達するという状態が、中国、韓国の少年に蔓延して、「ネットゲーム中毒症」の現状が、大きな社会問題となっていることが紹介されました。

中国では、こうした中毒症の少年を、麻薬中毒患者の更生施設のような収容所に強制的に3か月間収容して、更生させるという措置を講じているというのです。

森教授は、「こうした中毒症は、長時間ネットゲームをつづけることで、額のところにある脳(前頭前野)が正常に働かなくなり、もの忘れがひどくなったり、正しい行動をする判断ができなくなっているのが原因」と指摘されます。

笑顔で交歓し 友情の絆を深める

交流会に全国から170人参加

記念講演会、シンポジウムについて、交流会が行なわれ、全国から170人が参加し、お互いに出し物を披露しあい、笑顔で友情の絆を深めました。

オープニングは、シンガーソング・ファーマーの西川則孝・文抄子ご夫妻による「懐かしのメロディー」でスタートしました。

大会長の宮中雲子日本のお手玉の会会長の挨拶、佐々木龍新居浜市長の歓迎の言葉があり、藤田幸正新居浜市議会議長の乾杯の音頭で幕を開けました。歓談しながら、日本のお手玉の会の各ブロックから、順次、地方色豊かな寄せ玉遊びの「石なんご」や「お手玉演舞」などの出し物が披露されました。

後半では、永易英寿新居浜市議会議員から、東北震災の被災地を何度となく慰問し、炊き出しをしたり、日本のお手玉の会が託したお手玉を持参し、現地で交流した様子が報告されました。

また、福島県から参加した齋藤朋子さんは、日本のお手玉の会の会員、日本赤十字社の地域推進員として、仮設住宅や公民館、小学校を訪問し、心の復興に努めた様子や、被災地の現状について報告しました。

また、齋藤さんから、地元飯館村の菅野典雄村長から全国大会にあてたメッセージが届けられ、その内容が、司会者から紹介されました。

その対策として、森教授は、テレビゲームをする時間を少なくすること、お手玉遊びで前頭前野の働きを活発にさせることを、すすめておられます。中国や韓国でも、お手玉遊びを紹介され、近い将来、日本と中国、韓国のお手玉遊び大会も実現するのではないかと、話しておられました。

また、11月末には、森教授の著書「ネットゲーム 緊急事態」急増する「ネット&ゲーム依存」の正体」が、主婦と生活社から出版されることも紹介されました。



■ゲーム依存症を映像で説明



■講演会場は満席でした

脳の発育と創造性を育むお手玉 各分野の専門家がシンポジウムで語る

講演会の問題提起を受けて、つづいてのシンポジウムでは、「子どもの脳の発育と創造性の開発」と「お手玉」をテーマに、それぞれの分野の5人の専門家が話し合いました。

パネリストは、記念講演講師の森昭雄さん、教育学博士で鹿児島大学名誉教授の山本清洋さん、医学博士で愛媛労働病院名誉院長の伊藤雅治さん、詩人で日本童謡協会副会長の宮中雲子さん、コーディネーターは、日本子どもの発達研究所講師の岩城敏之さんで、それぞれ

「いまの日本の『自分さえよければ、他人はどうなってもよい』的な中で、お手玉が果たす役割は、ますます高まっていくでしょう。お手玉をとおして人と人が、地域と地域が世代を超えて、心がつながっていく、結ばれていくということでありましょう。さらなる普及によって、居心地のよい家族や、地域が出来ていく欲しいものだ」と、心から願っています。

このメッセージに、会場は大きな拍手が贈られ、感動と感激のムードに包まれました。最後に、NHKの東北支援ソング「花は咲く」を、全員が立ち上がり合奏し、伊藤雅治実行委員長長の閉会の言葉で、交流会は幕を閉じました。



の立場から興味深い、示唆に富んだお話がありました。

なお、パネリストに予定していました人形作家で白百合人形研究会主宰の上妻悦子さんは、急病のため欠席になりました。「参加を楽しみにしておりましたのに、医者の許可が下りませんでしたので欠席させていただきます。お許しください。ほんとうに残念です」とのメッセージが届いていました。

森さんは、「テレビゲームを長くつづけていると、前頭前野の働きが鈍り、行動の善し悪しを判断し、正しい方向に行動を制御することができなくなり、もの忘れがひどくなったりします。その脳の働きを活発にさせるのに、楽しんでお手玉遊びをすると効果があります」と話しました。

山本さんは、「自分自身の少年時代の遊びの経験が、現在の自分の生き方に絶対的な影響を与えています。子どもころのキラキラと輝く遊びを復権したい、そんな想いで、お手玉遊びの普及活動にも取り組んでいます。『仕事はやらなければいけないからやる。遊びはやらなくてもいいのにやる』そこが大切なのです」と訴えていました。

伊藤さんは、「日本画と折り紙を趣味として長くつづけて、創造性を高めています。お手玉の会とは、大会に折り紙で参加したのが縁でつながりができました。お手玉遊びは、歌を歌いながら体全体を使って遊ぶので、脳の働きを活発にする素晴らしい遊びです。私は、83歳から音楽教室に通ってピアノの練習をしています」と、何歳になっても能動的に生きること強調していました。



■大会会場に展示
お手玉の会20周年を記念して「孫たちと遊ぶ祖母」の人形をわざわざ大会にまにあわせ寄贈していただきました

会場に彩を添えた 「上妻悦子日本人形紹介パネル展」

記念大会のシンポジウムに、パネリストとして出席の予定だった人形作家の上妻悦子さん(白百合人形研究会主宰・東京都練馬区)が、急性結膜炎のため、急きよ欠席されることになりました。

会場内には、上妻さんが制作された人形の写真をパネルにして展示したコーナーを設けました。源氏物語を題材にした人形や、藤娘など、15点の写真を掲げました。

その精巧さ、きめの細かさ、表情の深さに、訪れた人たちは、ため息をつきながら、真剣な眼差しで鑑賞していました。

同研究会では、上妻さんのお手玉大会への参加を記念して、日本のお手玉の会に人形を寄贈いただくことになり、その「お手玉人形」も会場に展示して、入場者に鑑賞していただきました。

おばあちゃん、3人の子どもたちがお手玉を楽しんでいる様子が、リアルに表現されている、ほのぼのとした、ほほえましい見事な人形です。

制作者は、同会に所属する萩原邦子さん(東京都小平市)で、上妻さんお墨付きの素晴らしい作品です。日本のお手玉の会のシンボルとして、未長く活動の繁栄を見守っていただく存在であってほしいと願っています。



4人に「功労賞」が 団体戦で和歌山が優勝

2団体1個人に「特別賞」が

第2日目の9月30日（日）は、新居浜市制施行75周年と日本のお手玉の会設立20周年の記念大会のセレモニーで幕を開けました。

まず、会場に「日本のお手玉の会の20年の歩み」が、スライドショーとして映し出されました。第1回から第16回までの「全国お手玉遊び大会」の様子が紹介されました。

つづいて、大西社中による和太鼓演奏があり、勇壮な「祭り」と「屋台ばやし」の2曲が会場いっぱいに響き渡りました。そして、「第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会」の開会式が始まりました。まず、日本のお手玉の会会長の宮中雲子大会長から、20年にわたつての地元愛媛県、新居浜市をはじめ各方面からのご援助、全国の会員、お手玉ファンのご協力にお礼が述べられ、これからも変わらぬいご支援をいただくことをお願いする挨拶が述べられました。

次に、愛媛県の中村時広知事の祝辞を、俊野健治愛媛県東予地方局長が代読され、また、新居浜市の佐々木龍市長からは、歓迎のご挨拶が述べられました。さらに、記念事業に因んで、長年にわたりお手玉遊びの普及活動および文化のまちづくりに貢献のあった4人に、新居浜市長と日本のお手玉の会会長の連名で、「功労賞」の賞状と勲章が贈られました。受賞されたのは次の方々です。



■あいさつから始まる団体戦競技



■日本のお手玉の会設立20周年記念大会で新居浜市長と日本のお手玉の会会長の連名で4氏に功労賞を贈りました。

長年の業績を称え 4氏に功労賞が

日本のお手玉の会設立20周年の記念大会にあたり、長年お手玉の普及活動文化のまちづくりに多大の貢献をされた4人の功労者に、新居浜市長と日本のお手玉の会会長の連名で、「功労賞」が贈られました。受賞者は次の方々です。

日本のお手玉の会「功労者」

日本のお手玉の会の会員のなかから会の活動に功労のあった人物として、藤田石根、福田環、篠田啓子、斎藤朋子さんの4氏を推薦します。

推薦の理由は、次のとおりです。
 （事務局）

700人が笑顔で互いに腕前を競つ

両手4個ゆりで久門紘子さん優勝
 個人戦は小学生3種目、一般4種目
 個人戦は、小学生の部が両手2個ゆり、片手2個ゆり、両手3個ゆりの3種目、一般の部が片手2個ゆり、両手投げ3個ゆり（ジャグリング）、両手3個ゆり、両手4個ゆりの4種目で競技が行なわれました。

どの種目も、技量が伯仲で接戦が展開されました。最終段階では、頭にお手玉を乗せてゆったり、利き腕でない方からはじめたり、手の甲でゆるなどの特別ルールを適用して順位を決めていきました。

団体戦は、次の通りです。

団体戦の小学生の部には、4チームが、一般の部には42の登録がありました。しかし、台風16号の接近で一般の部では4チームが欠場となりました。

一般の部の対戦は、まず3チームずつ14のブロックに分かれてリーグ戦を行い、2勝したチームが決勝トーナメントに出場する方法で行なわれました。

その結果、優勝「スマイル」（和歌山）、準優勝は「J.A京都にのくにA」（京都）、3位は「尼崎のお手玉の会」（尼崎）の順番になりました。

団体戦は、8コート（1コート畳8畳で行なわれましたが、どのコートも応援団が取り囲み、大声で励まし、拍手を送り、熱気が会場いっぱいになぎついでいきました。

藤田石根（ふじた いわね）：新居浜市

日本のお手玉の会の設立当初から活動に参加。平成5年からは、自家所有の用地に事務所と会議室を併設したプレハブを建設し、日本のお手玉の会の事務所として提供してきた。

そのおかげで、事務所を持つボランティア活動として、日本のお手玉の会の大きな飛躍の礎を築いた。

ご自身は、お手玉遊びの講演や実技指導に東奔西走し、海外遠征も18回を数えるなど、国の内外へのお手玉遊びの普及活動および日本のお手玉の会の発展に多大の貢献をした。

福田環（ふくだたまき）：倉吉市

平成5年の第2回全国お手玉遊び大会（新居浜市立山根総合体育館）から、全国お手玉遊び大会に、毎回参加。お手玉遊びの基本仕事など、現在、日本のお手玉の会が行っているお手玉遊びの指導マニュアルの基礎を築いた。

地域に伝わる伝統的なお手玉遊びやお手玉歌の発掘に努め、その継承、普及に努力をつづけている。とくに、中国地方に伝わる「石なんご」の普及に力を注ぎ、ミニお手玉を考案して、現代風「布石なんご」遊びとして地域に広めている。

平成7年に、日本のお手玉の会の支部第一号として「とっとりのお手玉

団体戦の入賞チームには、共催の愛媛新聞社からトロフィーや賞状が送られたほか、今回は、日本のお手玉の会から、二人ひとりにメダルが首にかけられ賞状が渡され、受賞者は「オリンピックみたい」と大喜びでした。



■一般の部「団体戦」上位入賞表彰

■小学生の部「団体戦」上位入賞表彰

お手玉の会設立20周年記念大会として

「特別賞」が贈られる。

「特別賞」を受賞されたみなさん。記念の大会ということで、新居浜市から「特別賞」が、2団体1個人に贈られました。

「新居浜市長賞」は、遠距離をいとわず参加した沖繩お手玉の会（沖繩県）に、「市議会議長賞」は、ふれ合う心の大切さを披露した高木文子さん（島根県）に、「新居浜教育長賞」は、笑顔を忘れず演技をして感動を与えた神郷小学校チーム（愛媛県）に、それぞれ贈られました。



■神郷小学校チーム

の会」を設立し、会長に就任。今日に至っている。また、自前でお手玉の館を設け、地域でのお手玉の普及の拠点として活動している。

篠田啓子（のだけい）：飯田市

日本のお手玉の会設立以前に、長野県飯田市で日本お手玉協会の設立に取り組んでおり、地方の新聞では「日本お手玉協会の準備が着々進む」と紹介されていた。その段階で、全国レベルの新聞やテレビ、ラジオで、新居浜市に日本のお手玉の会が設立されたことが伝えられた。

篠田さんは驚き、飯田市役所を通じて新居浜市役所に確認の電話を入れた、というエピソードが残っている。また、飯田地方で「お手玉を」おしなご」ということから、自らを「おしなごおばさん」と呼び、その名を刺しゅうしたユニホームを製作し、それを着用して地元はもとより、全国に出かけ、お手玉遊びの普及に取り組んでいる。

また、飯田名産の絹巻き水引で作ったお手玉や各種の創作お手玉を生み出し、意匠登録をするなど新しいお手玉の開発にも意欲を燃やしている。

さらに、「おしなごぽんぽんあそび」など多くのお手玉遊びに関する図書を自費出版している。



第17回全国お手玉遊び大会 「一般部・団体戦」で初優勝に輝く

続ける大切さが光る

和歌山のお手玉の会

会長 森 勝代

今年度の活動は、11月1日の「お手玉遊び近畿ブロック和歌山大会」に焦点を当てて取り組んできました。常時活動の県立図書館での「お手玉教室」や河北コミュニティセンターでの「お手玉の会」の活動の他に、日本のお手玉の会の例会も随時行つて、大会に向けて技の向上や演舞の練習にも力を入れてきました。

昨年までは、午前中のみの活動でしたが、午後3時過ぎまでの会合が多くなりましたが、会員の皆様都合をつけてよく参加して、協力してくれました。

そして、宣伝活動にも力を入れて、お声をかけてくれるボランティア活動にも時間の都合のつくかぎり参加しました。近畿大会のチラシをその都度白黒でしたがマス刷りして対応してきました。

一般会員さんの参加を呼び掛けたの子どもたちの参加やボランティアに行っている保育所・小学校・老人施設の方々にも参加していただきたく、7月には、第2回お手玉大会、8月には、初めて「お手玉講習会」を計画しました。

第2回お手玉大会では、11月のプレ大会と位置づけて、プログラムを立て、審判の練習もしました。アメリカからのホームステイで日本の文化を学びにきている青年との楽しい国際交流ができました。



第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会「一般部・団体戦」で大会実行委員長より優勝旗と優勝杯を受けました。



「お手玉講習会」では、冊子「お手玉読本」を100部制作し、「お手玉の楽しさを教育現場と老人の方々に広めるには」と目標をおいて、今までの研修で学んだことを伝えました。小学校の先生は、「2学期にあるお年寄りとの交流にお手玉を使いたい。参考になった。」と言ってくれました。今後広めていただけるようお願いします。

また、8月末に貴志川線まつりという市民の足となっている「ねこの駅長」のいる貴志川線の存続を願うイベントに一日参加し、お手玉のゲームや作り方の講習をしました。時間をかけて縫ったお手玉を大切に持って帰ってくれました。



和歌山へ帰って団体戦優勝のお祝い記念撮影

9月の日本のお手玉の会の第17回全国大会に7人で参加し、団体戦で思いも寄らず、優勝できました。一回戦毎に体調を整えて、祈る気持ちでそれぞれの力を出した結果でした。信じられない気持ちでした。初めて優勝旗、優勝カップ、金メダル、賞状をいただける経緯をしたメンバーは「お手玉をしてよかった。」と喜び合いました。

あいにくの台風で、和歌山までは交通機関が不通で帰れないことがわかって、もう一泊して帰ることになりましたが、優勝した喜びで祝杯をあげました。

翌日和歌山駅に午後2時に着くと、副代表の坂上さんがホームで「祝おめでとう」の大きな模造紙を持って迎えてくれました。みんな涙ぐんで喜びました。

その後、知事さんに報告できる機会をえました。知事さんも驚くほどの報道陣の方々に囲まれることになり、NHK和歌



■全国大会に7人で参加。お手玉して良かった。応援してくださったみなさんに感謝いたします。

お手玉支部交流会 in おのみち

主催 尾道お手玉フレンド

★とき 平成24年5月12日(土) ところ 千光寺山荘

★とき 平成24年5月13日(日) ところ 尾道市民センターむかいしま



尾道お手玉フレンド

榎 信子

初日は好天にも恵まれて、さわやかな風を肌を感じながら尾道水道を眼下に、千光寺公園を散策し、そしてロープウェイで再び公園の頂に戻りました。そして夜の親睦会では紙芝居やお手玉演舞等、数々の出し物を楽しみ、なごやかなひとときになりました。

2日目はホテルのマイクロバスで尾道市民センター(愛称こころ)へ会場を移しました。「元氣いきいきいきり」でウォーミングアップ、そして各支部の技の披露がありました。その後で、発表された技で希望されるものを教え、又教えてもらって練習をし、とても賑やかな時間があったという間に過ぎていきました。又、その時間には希望者には段位取得の実技試験も行われました。

午後は、お手玉を使ったグループ遊び、幼児、低学年向けの遊び等、全員で体験しました。皆さんの笑顔とご協力のお陰で無事終えることができましたことをとても有難く感謝しています。交流会で得た情報を各支部でさらに楽しみ、これからの活動に生かしていけたらと思います。

このたびの「お手玉遊び交流会」に関しまして色々ご指導いただきまして、有難うございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

尼崎のお手玉の会 発足10周年お手玉遊び大会を開催

尼崎のお手玉の会

会長 池邊 美保子

★発足10周年 お手玉遊び大会開催
★第17回全国お手玉大会 三位入賞
★兵庫県くすの木賞受賞11月29日

尼崎のお手玉の会の10周年大会を開催の後、前記のような思いもよらないすばらしいプレゼントをいただきました。会員13名、無理せず、和気あいあい笑顔で楽しくをモットーに、又、地域の施設や小学校の子どもクラブとの交流を継続できたことや、いつも温かく支援してくださる神戸お手玉の会をはじめ、沢山の方々にお世話になりながら活動してきたおかげで、今日の喜びをかみしめている私達です。活動は小学校4校、デイサービスセンター2カ所、他に依頼



■兵庫県くすの木賞受賞に驚きと感動がたっぷり続けて良かった。



があれば出かけてきます。

伝承遊びお手玉のすばらしさは、手作りの温かい栄養満点のあそび、そこには笑顔があり会話があり笑い声がいっぱい、時間はアツという間に過ぎてしまいます。0歳児から高齢者・障害者までこれからも楽しい輪を伝えていこうと、定例会の練習に頑張っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

宮崎お手玉の会

会長 弘田 和子



■おそろいのお手玉ポロシャツを着て第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会へ参加シンポジウムのコーディネーター岩城さんと本部事務員さんと思いの1枚として記念撮影

①ショッピングセンターの中央コーナーで「お手玉遊び」を来店者の子ども達と楽しみました。お手玉の他に折り紙、飛び出すカード、バルーンアートなどいろいろな遊びの楽しさも紹介しました。
②「お手玉ポロシャツ」作りしました。

濃いピンク地に宮崎お手玉の会と特注の文字を入れ、お手玉が飛んでいる図案にしました。Smile for all も入っています。

みんなでおそろいを着て新居浜の全国大会に行きました。「素敵ね、とても似合うよ」と皆さんに言われて全員にこに笑顔になりました。

宮崎から新居浜までレンタカーで13時間、帰りは台風のためフェリーが欠航、四国から広島、福岡を通じてやっと宮崎へ。疲れましたが心から楽しむことができた新居浜への旅でした。ありがとうございました。



伝統文化に触れる機会に「おしなごの会」 製作と競技会を開催
第13回お手玉遊びの集い
 とき：八月二十五日 ところ：社公民館（倉吉市）

伝承文化を守りたいとの思いで20年活動を続けています。今回は、東は岩美、西は溝口から大勢の方が参加。会場は笑顔が絶えず、お手玉の原点でもある小石を使つての遊び、端切れて手作りした小さなお手玉遊び、現在多く使われている座布団型のお手玉での振り技、拾い技とあつという間の一日でした。

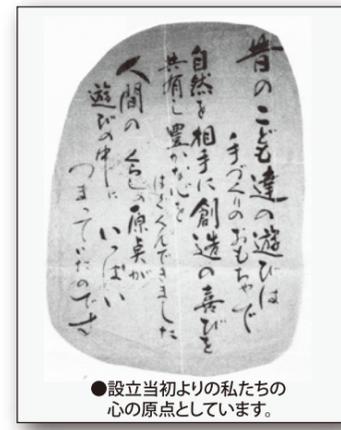
「先人の技を後世に」「手からぬくもりを届けたい」、そして「ほっとひととき暮らしの中にお手玉を」を合言葉に、今回の集いを約束して閉会となりました。

ミニお手玉の普及を当分はかりながら、伝承の遊びの大切さを話すことが、参加者へまた新しい感動が伝わると確信した一日でもありました。

とっとりのお手玉の会
 会長 福田 環



昔のこども達の遊びは
 手作りのおもちゃで
 自然を相手に創造の喜びを
 共有し豊かな心を
 はぐくんできました
 人間の ぐらしの原点が
 遊びの中に いっぱい
 つまっていたのです



●設立当初よりの私たちの心の原点としています。

信州日報
 信州おしなごの会
 おしなご 製作と競技会を開催
 信州おしなごの会（信州おしなご会長）の制作と競技会を開催。会場は、飯田市サロンドで開いた。午後

アドバイス聞きながら、おしなご製作に取り組む

信州おしなごの会
 会長 篠田 啓子

午前中におしなごの製作を行い、午後競技会を行った。

飯伊地方ではお手玉のことを「おしなご」と呼ぶ。同会会長の篠田さんは飯田市に在住し、「日本のお手玉の会」理事も務めながら、30年余にわたり、おしなごの普及に尽力してきた。その一環で定期的な製作の場や競技会を開いている。この日は約30人の参加者が集い、小さな子どもの姿もあつた。



おさらりは長寿を祝うめでたい遊び
 ●イラストは篠田さんの出版物から

北へ南へフットワーク軽く
 鹿児島のお手玉グループが岩手県釜石市の被災地を訪問。

懐かしいお手玉はすぐに笑顔を誘った。と南日本新聞が紹介して下さいました。

鹿児島お手玉の会

会長 山本 清洋

鹿児島お手玉の会も来年で創立10年目を迎えます。支部数5、会員数180の所帯ですが、元気よく健康づくりと地域の活性化に取り組んでいます。5つの支部が毎週2回は地域の福祉施設等に出かけ、お手玉の温もりを届けています。

北への旅・東日本大震災で被災された方々にどうにかして「お手玉のぬくもりと楽しさ」を届けたい。自らの身体をその地において、震災の状況を知り、自らの心で被災地の方々と繋がりたい。この念願がやっと実現しました。

会員が作ったお手玉1,000個を届けた後、平成24年10月6日、岩手県釜石市の仮設住宅・昭和園、大松地区集会所の2か所を訪問し、「お手玉を楽しむ集会in釜石」を実施しました。

「お手玉ラジオ体操」、演舞「いい湯だな」、「お手玉譲り」などで、一気に和やかな楽しい雰囲気が出来ました。さすが「お手玉」です。

多くのスポーツ、レクリエーションを経験していますが、お手玉ほど、温かい気持ちをお届けられる「遊び文化」は他に見当たりません。2年以内に再び訪問することを約束して鹿児島に帰りました。

お手玉楽し被災者笑顔
 始良のグループら釜石訪問
 「昔遊び」で慰労
 南日本新聞掲載記事より

■お手玉を手に記念撮影する仮設住宅の皆さん

南への旅・ご存じのように鹿児島県は南北に約600kmも広がっています。は南北の会員が本土での研修会に参加するのはいろいろと困難が伴います。

奄美大島お手玉の会が発足
 種子島の西之表お手玉の会に続いて
 沖縄県奄美市の名瀬に会が誕生！

設立当初からの支部で現在も約50名の会員を抱える種子島の西之表お手玉の会に続いて、奄美市の名瀬に奄美お手玉の会が発足しました。設立研修会に8名で出かけ、無事に研修を終えたのですが、台風16号の影響で3日間足踏み、台風下での観光というお土産を頂きませんでした。

めざましい活躍
 河川敷で「伝統文化こども教室」

八王子お手玉の会

副会長 藤岡 美代子

「伝統お手玉教室」も、今年で5年目を迎えました。この教室に継続して参加している子どもたち（中学生3名・小学生2名の中には、4段、3段の腕前に上達し、児童館まつり、保育園での演舞の披露、また各種イベントなどで活躍しています）。

今回は、そのひとつとして、八王子市子ども会地区連合会「こどもまつり」の様子を紹介いたします。これには、子ども会員も含め総勢11名の子どもたちが、技を披露し演舞の発表をしました。

会場は、広い河川敷で行われました。遊び、食べ物、工作や手作りコーナー（会員は、お手玉づくり、遊びコーナーで活躍などの一角に発表コーナーが設けられ、お手玉の会を含め3団体の発表がありました）。

会場は、舞台もなく、青空の下での広い空間、そこで全身タイツに水玉チュニックのユニホーム姿の「パフォーマンス」、長半纏（はんでん）に鉢巻きで「よさこいソラ」の踊り、どちらもエネルギーギッシュでパワフルな発表でした。

そして、こどもたちの発表がはじまりました。遠目には、目立たないお手玉、会場の視線を一人でも多く集めるために、マイク片手に「こんにちは」、八王子お手玉の会でです。楽しいパフォーマンス



■八王子市子ども会地区連合会「こどもまつり」は広い河川敷で楽しくお手玉遊びを練習していました。

やエネルギーギッシュな踊りの後、優雅なお手玉を...と大声を張り上げ、八王子お手玉の会のアピールをしました。

つづいて、お手玉のあいさつをし、基本の2個ゆりからはじめ、二人お手玉を取り入れた演舞、中学生の4個ゆり、二人6個ゆりなどを披露しました。最後は、会員の技をたっぷり(?)と入れた演舞で終わりました。

見ていただいた人たちにとっては、お手玉遊びの奥の深さや子どもたちの技に驚き、真剣で緊張感あふれる姿に感動したようでした。

子どもたちは、発表のたびに上手になり、今回も達成感と自信にあふれていました。見ている私たちも、子どもたちの思いが共感でき、活動の励みにもなります。

理解ある協力的な保護者と子ども会員たちには、いつも感謝！です。

2月には「伝承文化こども教室発表会&第6回八王子お手玉遊び競技大会」があります。世代間交流を図りながら、お手玉の「輪」を広め、次世代につないでいきたいと思っています。

福岡お手玉の会の縫い方・揺り方を学ぼう

●とき：平成24年7月10日(火) 10～16時
●ところ：あいれふ(婦人会館9階)

福岡お手玉の会

会長 岡 文字

福岡お手玉の会では、会員の技術向上と会員相互の親睦を兼ねて研修会を開きました。講師は、会員の中からそれぞれの分野に秀でた方に務めてもらいました。参加者31名。

縫い方は「ざぶとん型」に挑戦、一片ごとの細かい指導に、「本を見て作ってもな



■ざぶとん型の縫い方の講習会



■審判の指導と実施練習



■研修後の模擬練習試合

かなかきれいにできなかったのに、指導の通りに縫ったら、きれいなお手玉ができてうれしかった」との、声がありました。審判の指導は、ルール、旗の上げ下げ、言葉の表現等、しっかりと教えてもらいました。

揺り方は、お手玉の歴史と、日本のお手玉の優しさ、優雅さを、お手本を見せながらの指導に、その美しさに見入ってしまいました。この研修の成果を期待しながら模擬試合をしました。ここでは、審判の体験も厳しさとユーモアを交えた指導に、大笑い、疲れも一掃しました。プログラムは次のような内容でした。

福岡お手玉の会研修会

- 開催日：平成24年7月10日(火)
時間：午前10時～午後4時
場所：あいれふ(婦人会館9階)
- お手玉の基本的縫い方・揺り方を学ぼう
…… プログラム ……
1. 開催に当って
 2. 講師紹介
 3. 縫い方……藤井昭子先生
 4. 昼食
 5. 審判のルール……原 妙子先生
 6. 基本の揺り方……香月悦子先生
 7. 模擬試合
 8. 質疑応答
 9. その他
 10. 終了

福岡お手玉の会

北海道で念願の「第1回札幌お手玉遊び大会」を開催

札幌お手玉同好会

会長 今井 幸子



■第1回 札幌お手玉遊び大会
お知らせのパンフレット

■とき：平成24年7月1日(日)
■場所：札幌フローラ



札幌大会の成功の鍵は交通安全協会の方の協力がすべてでした。お手玉大会を開催することは協力者の支援が大切なことを知る機会でもありました。



■審判はお見事でした。



■一般の部 個人戦競技

札幌大会ではありましたが、北海道にとっても初めての記念の「第1回札幌お手玉遊び大会」を7月1日(日)に、ホテル札幌フローラに於いて開催しました。参加者70名により、一部交流会、二部競技会でした。交流会は、開会直前に亡くなられました佐野栄市会長の代わりに今井幸子代表が、感謝感激の主催挨拶をされました。来賓は北海道支部長の高橋照子様、支援者の西村寛幸様から激励を頂戴しました。交流会を盛り上げたのは、関係団体の応援発表。今井代表と90歳の成田トミ会員によるお手玉ソラン演舞、会員一同による発表でした。

競技会は、個人戦3種目、6チームによる団体戦で、年齢を忘れての素早い動き、観客の大声援等、お手玉競技が楽しく、競技性があると改めて実感しました。素晴らしい大会ができましたことは、会員一同、支援者の一生懸命の賜物でした。大成功でした。又、宮中雲子会長の心温まるメッセージ、武田信之理事の親切なご指導、誠にありがとうございました。最後に佐野会長のご尽力により、北海道で初めての大会が無事開催ができましたことをご報告申し上げ、心から御冥福をお祈りいたします。

〜とどげよう！お手玉のぬくもり〜

平成24年度お手玉遊び近畿ブロックin和歌山大会を終えて



■一般の部 個人戦競技

と き：平成24年11月11日(日)
と ころ：プラザホープ (和歌山市北出島)

和歌山のお手玉の会

会長 森 勝代

まあ、よく参加してくださいました。参加人数250人は越えたかなと思える参加者でした。本当に有り難うございました。

昨年の豊岡大会の帰りのバスの中で、来年は近畿大会を和歌山でと決意してから、すぐ日程を決め、会場探しをしました。

年が明けてから、県・市や報道関係の後援依頼を行いましたところ13団体から頂きました。

初めての経験でしたが、協力してくださいました。

近畿ブロック長の北村さんには、3度と和歌山に向いていただき、丁寧な指導を受けて準備に取りかかりました。

この活動を和歌山の方々にもご理解いただき、お手玉の会の存在をお知らせで

きたらと、できる範囲での宣伝活動やイベントに参加し、ボランティア活動をしてまいりました。

幸い報道機関や地方紙の方々には、よく協力していただきました。日程が近づくとつれ、どのメディアも告知をしてくれました。

数日前の金曜日の夕刻NHK和歌山放送もきれいな画面で告知してくれました。沢山の方々のご協力で大会を迎える事ができました。

日本のお手玉の会の理事である中嶋さんと北村さんには、本当にお世話になりました。貴重なアドバイス有り難うございました。

また、日本のお手玉の会の元会長の武田信之さんも、前日の交流会から参加いただき有り難うございました。

本部からは宮中会長のお祝いのメッセージをいただき、垂れ幕をお借りし、表彰状の作成もしていただき、また近畿の皆様には手作りの飾り付けをしていただき、すてきな会場設定ができましたことを有り難く思っています。

当日は、長野・岐阜・広島・香川県・愛媛県からの参加者を含め2府8県からのお手玉愛好者の方々が集まってくださいました。

地元和歌山のお手玉の会の会員以外の一般の方々や子どもたち、そして保育所、小学校の先生方の参加も多く、お手玉遊びの良さや楽しさを味わっていただきました。



■「小学生の部」個人戦競技の風景

来賓の方々には、お忙しい中お越しいただき、御祝辞も賜り深く感謝いたしました。和歌山の会員の南京玉すだれ、腹話術やマジック、そしてけん玉世界一の向井智哉先生のアトラクションも会場の皆様を楽しませてくれました。

お手玉の技の披露では、今村シメ子さんの妙技に皆さん感激いたしました。尾道から参加して下さったお手玉フレンドの皆さんによる、「森の小人」の素晴らしいお手玉演舞の披露も有り難うございました。

個人戦や団体戦も審判長の方々の的確なルール説明があり、整然と行われ白熱いたしました。一時会場がシーンとなるほど集中した場面もありました。戦い終わった後の笑顔と握手に強い友情と



和歌山大会の表彰シンボル

一方子どもたちの個人戦や団体戦では、ボランティアをしている図書館のお手玉教室に参加している子や、指導に携わっている小学生が活躍してくれて、大人の方が興奮している場面がありました。また、両手3個ゆりをとでも上手にゆる小学校3年生の男子には、大きな拍手が送られ、早速両手4個ゆりの手ほどきを受けたと聞いています。

最初は子どもたちの参加があるのかと心配しましたが、思ったより参加してくれ、「虹のおころへ」の演技も、舞台で披露してくれ、頼もしさを感じました。

お手玉演舞では、和歌山をより立てようと演舞を舞ったどの支部も素晴らしい、学ぶ所がたくさんありました。

うれしいことに大会が終わって、参加して下さった和歌山の方から例会に参加したいと問い合わせがありました。

いろんな場面で集まった人々の暖かさ、優しさ、お手玉の効用の感じられる大会でしたが、これも参加して下さった皆様のご協力があったことと厚く感謝いたします。

初めての経験で至らない所が多々あったと思いますが、参加された方々のおもいやりでカバーしていただけたと、感謝の気持ちでいっぱいです。本大会が無事に終えられたことを、和歌山のお手玉の会の会員一同感謝いたします。

「奈良町からくりおもちゃ館」が新設されました。
奥の明るい広間をお借りしました。



■奈良町からくりおもちゃ館

奈良お手玉の会「たまゆら」

会長 田井 美津子

トピック① 楽しく、明るく、会員に指導して下さった前会長が今年、早々に京都に新支部を立ち上げられました。姉妹支部とし御交流お願いします。
トピック② 三月末で練習場所が使えなくなり随分心配しましたが「奈良町からくりおもちゃ館」が新設され、奥の明るい広間をお借り出来ました。周りの人々の御配慮に、会員一同感謝の気持ち一杯です。
トピック③ 嬉しいことに会員が二人増えました。続いて六人が見学に来られ来年度は入会者が増える予定です。



上の写真はからくりおもちゃをつかって遊ぶ

トピック④ 恒例の春、秋の「飛鳥里山まつり」たまゆら発祥の母体の「わらべうたフェスタ」演舞や、子供たちの段位認定で大忙し、姉妹支部合同で楽しみました。各会員の各地域での活動が定着してきました。幼稚園、小学校、保健センター、デイサービス等々。現在の世相を反映してお手玉の良さを求める声が大きくなってきたように思います。
「たかがお手玉 されどお手玉」と
「さずがお手玉」



■子どもたちにお手玉遊び指導に出かけるめずらしさにニコニコ顔がとても愛らしい。

平成24年2月1日
京都府に新たな支部が誕生です。

日本のお手玉の会 支部認定
第64号として認定されました。

支部名
【京・村人お手玉フレンド】

ごあいさつ

こんにちは、始めまして京都府でただ一つの村、南山城村に「京・村人お手玉フレンド」が生まれました。
会員は、まだ10人程度ですが少しずつ増えて来ています。村は、あちらこちらの山間に一つずつ集落があり、日本昔話にでもできそうな所です。
四十代から六十代の会員が集まって「早く村の皆さんに楽しんでいただけようになりたい」と練習に励んでいます。全国の皆様に少しでも近づきたいと頑張りますのでよろしくお付きあいをお願いいたします。
会長 今口 尚子



■「京・村人お手玉フレンド」の仲間です。日本のお手玉の会の会員としてお手玉の伝承遊びの普及活動に、ご一緒させていただきます。ご支援ご協力をお願いいたします。



新たな主役が
村人と共に！
笑顔の配達便・村を元気に



■村のイベントに積極的に参加感動の拍手喝さいに大満足

京・村人お手玉フレンド

前会長 田村 節子

京・村人お手玉フレンドが誕生して、十か月が過ぎようとしています。そんな秋の一日「むら活生きまつり」に演舞とお手玉遊びコーナーに参加しました。
その時の仲間の生き生きと楽しそうな笑顔を見て、お手玉の魅力のすごさと、短時間に「よくぞここまで」という思いと、又、それを見ている村人達の「えー！これがお手玉」という感動の姿に、村で立ち上げてよかったと思ふ一瞬でもありました。
奈良支部からも応援があり、その方々も大自然の中での催しに深まる秋を感じ、村の特産物のもてなしに満足をして帰路について頂けました。これからもお手玉を通じ、仲間といつまでも生き生きと、笑顔の宅配便として必要として頂ける場所に出掛けて行こうと思っています。

平成24年度県民総合文化祭協賛事業

宮中雲子音楽祭
第15回日本の合唱コンクール
と き：平成24年11月18日(日)
と ころ：愛媛県西予市三瓶文化会館



同じ課題曲を小学生と
大人が歌う楽しさ

第15回宮中雲子音楽祭・日本の合唱コンクールは、平成24年11月18日(日)に愛媛県西予市三瓶町で開催されました。
今年、コンクール部門の小学生の部に4校一般の部に11チーム、フェスティバル部門に6チームが参加しました。
ことしの課題曲は、宮中雲子作詞、早川史朗作曲の「はなれてしまえば」でした。いつもながら、同じ課題曲を、小学生と大人が歌うところに、楽しさ、面白さ、訴える表現の方法の違いを感じる事ができました。
そのほか、ソプラノ歌手の山田悦子さんと、元「うたのおねえさん」の中野慶子さんによるミニコンサートなどがあり、楽しいひと時を過ごしました。

【審査員】

- 愛媛県合唱連盟会長 佐藤 陽三先生
- 愛媛県文化協会名誉会長 中野 慶子先生
- 愛媛県文化協会理事 宮崎 歩先生
- 愛媛CATVのキャスターとして愛媛新聞ニュースフラッシュ、情報番組「たうん広場」など担当 泥谷 強史先生
- 作曲家・日本童謡協会理事 全国大学音楽教育学会関東地区会長 早川 史郎先生

司会：平岡律子 フリーアナウンサー

愛媛CATVのキャスターとして愛媛新聞ニュースフラッシュ、情報番組「たうん広場」など担当

レビ 深夜枠の音楽理論番組「音楽の正体」にて音楽スタッフとして参加。1996年、クラシカル・ポップ・ユニットを結成。日本全国の学校・教会・ホール等で演奏活躍中

1993年〜94年までフジテレビ 深夜枠の音楽理論番組「音楽の正体」にて音楽スタッフとして参加。1996年、クラシカル・ポップ・ユニットを結成。日本全国の学校・教会・ホール等で演奏活躍中

悠久と感動の瞬間



宮中雲子音楽祭 日本のお手玉の会 会長 西予市長 三好幹二

ときに人は無意味なことを言ってしまう。昔の歌はすべていいの、いい歌だけが残っているのか、と。
また、ある人は数学の授業は大事だけれど音楽の授業は退屈だよ、とも。
ある理事会では、原子炉のために1億円を投じることを満場一致で可決したが新しい黒板購入をめぐって大いにめた。
大事なものはなんでしょう？
たとえばこんな言葉をとってみましょう。正直、大望、信念、慈善、責任、勇氣、教育、信条。
おそらく50億にのぼる人間は、こんな言葉に頼って人生を生きてはいないでしょう。だから世界はまだトラブル続き。
でも考えてみましょう、もしたった一人の人間でもそれをやっていたら、そしてそれがあなたであれば、あなたの生活がどんなに豊かになるかを。
わかりやすく伝えましょう。美しさ、優しさ、愛、感動などの、数で表現できない心の問題を、すべての子どもたちに。
みなさんは感じたことがありますか。いままさに、日本最古級地層の黒瀬川構造地帯の一部である須崎海岸を背にして歌おうとしているのだ、ということ。

4億年の時と自然、はるかなる地球の歴史と祈りの歌声、そして感動の瞬間。美しいことばと旋律に包まれた、宮中雲子音楽祭の成功を祈ります。
(実行委員長を長年続けてこられた、故井上信夫氏に感謝と哀悼を捧げます)

山田悦子ミニコンサート
同時に開催しました。

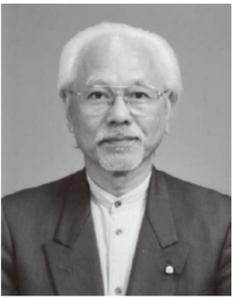


ソプラノ歌手 山田悦子
西予市三瓶出身 (現在横浜市に在住)

東京純心女子短期大学音楽科ピアノ科卒業後、音楽マネージメントの楽友社に勤務。音楽の仕事に関わりながら、人の心に響きたる音楽に魅かれ、女性コーラスグループ「りんごの木」に所属、ソプラノのソロパートを務める。声楽を松本右宣子、飯田千夏女史に師事。NPO法人すけっとクラブ横浜の役員として福祉活動を通じ、「癒しの音楽」を研究。2010年7月KOSMA音楽コンクール声楽部門で最優秀グランプリを受賞。

金賞は三瓶小学校と女声合唱団の「歌姫」

審査の結果、栄えある金賞を受賞したのは、少年少女の部で三瓶小学校(愛媛県西予市)一般の部で女声合唱団「歌姫」(愛媛県松山市)でした。
受賞団体には、賞状、盾のほか、それぞれ15万円と、20万円が贈られました。



日本のお手玉の会
元会長 武田信之

～お手玉の魔力とすばらしさ～ 「れきハコ」は若返る“玉手箱”

* 歴史を詰めた「れきハコ」

テレビから、「れきハコ」という、聞きなれない言葉が流れた。「なんだろう?」、画面を見た。それは、富山の薬売りの荷物を連想させる、紺の袋に包まれた箱のことで、愛媛県歴史文化博物館の学芸員が、県内の介護施設に持ち込んだものだった。

学芸員は、「これは『れきハコ』(歴箱)といって『歴史の玉手箱』です」と説明していた。箱の中には、懐かしい「小學國語讀本」「尋常小學唱歌」などの教科書や、鳴子、お手玉など、昔の生活用具がたくさん入っていた。

施設のお年寄りは、ニコニコしながら、箱の中から思い思いの物を取り出す。教科書を開いて、「サイタ サイタ…」と声を出して読む人。「ポッポポポ ハト ポッポ…」と歌う人や、鳴子を振ったり、お手玉をゆったり、みなさん明るい表情で楽しんでいた。

* 認知症の人を笑顔にした

そんな中に、みんなの輪から外れ、無表情で座わる女性がいた。80歳半ばの認知症の女性だった。その人に施設の職員が、2個のお手玉を渡した。すると、女性は、しばらく手に持ったお手玉を眺めていたが、やおら2個のお手玉をゆり始めた。笑みを浮かべるやさしい表情に変わった。

そして、教科書を読んでいる人たちの仲間に入り、一緒に唱歌を歌い、国語の読本を読んだ。仲間のみなさんから、「上手だね」と声をかけられた。それに対して、「若い時は、小学校の教師をしていたの…」と、認知症の女性が笑顔で答えた。

「これから唱歌を教えて…」と、みんなから乞われていた。女性の表情はさらに明るくなった。昔の生活を再体験することで、記憶がよみがえり、元気になる過程を見ることができた。これが「れきハコ」による「回想法」で、最近、介護施設で人気を呼び、貸し出しが増えているそうである。

番組の最後に、学芸員は「浦島太郎の『玉手箱』は、蓋を開けると老人になりました。『歴史の玉手箱・れきハコ』は、開くと若返るのです」と話していたのが印象的だった。

* 70年ぶりのお手玉に涙

私にも、それに似た体験がある。23年前のこと。ボランティアグループの新居浜アメニティ倶楽部(初代会長は「泉」同人の宇和宣さん)で、お手玉の普及活動に取り組むことを検討していたときのことだ。市内の老人ホームを訪ねた。

80歳過ぎの女性3人に、お手玉を渡して、遊び方などを聞いた。が、「もう、忘れました」との返事。仕方なく話題をホームで人気のカラオケの話に変えた。ところが、しばらくすると女性の手が動き、お手玉が弾みだした。

3人は立ち上がり、3個のお手玉をゆりながら、「一かけ、二かけ、三かけて…」と歌った。ひとしきりして、「お手玉は、70年振りぶりです。すっかり忘れていたのですが、体が覚えてくれたのですね。ありがとうございました」と、涙を流された。

この感動の涙が、私たちに、お手玉遊びの普及活動を決断させてくれた。それが起爆剤となり、「新居浜発、全国・世界行き」の日本のお手玉の会の活動が、スタートしたのだった。

* 孫世代との交流にむかし遊び

いまお手玉遊びは、幼稚園、小学校など教育の現場や介護施設、公民館活動で、広く採用されている。お手玉にかぎらず竹馬、コマ回しなど、祖父母世代の私たちが、子どものころに体験した遊びを再体験するとともに、孫世代との交流の素材として使い、伝承していくことが、求められている。

そうした行動をとおして、明るい、「心豊かなまちづくり」につないでいきたい。『れきハコ』のテレビ番組を見ていて、そんなことを感じた。

(俳句誌『泉』平成23年5月号「泉」に掲載)

きょうはなんの日?

9月20日はお手玉の日です。

新聞やテレビで多彩に報道



「きょうは何の日?」として、9月20日を、今年は多くの新聞やテレビが、『お手玉の日』を取り上げてくれました。愛媛新聞では、次のように紹介しています。

「1992年のこの日、新居浜市で第1回全国お手玉遊び大会が開かれたのを記念して制定。大会を機に、市内に事務所を置く「日本のお手玉の会」が発足した。

お手玉遊びには脳の活性化を助ける効用があるとされ、教育、医療、介護などの分野で注目が高まっている。お手玉の会も学校や老人ホームで教室を開くなど普及に取り組み。29日、30日には市内のホテルで第17回全国大会を開く。…」と、市内の保育園での祖父母参観でお手玉遊びをする写真を掲載して、紹介して

います。

一方、NHK松山放送局では、9月20日のテレビ報道番組「いよ×イチ」で、『9月20日はお手玉の日!』のタイトルで、新居浜市内の遊学館から、お手玉遊びの集いを、中継しました。

遊学館では、日本のお手玉の会の今村シメ子師範代を中心に、神郷お手玉クラブのメンバーや、小学生など十数人の練習風景を中継しながら、「世界に広がる日本のお手玉の会の活動や、脳の活性化に役立つ効果、お手玉の技の披露」などが紹介されました。

そのほか、宮崎支部でも、この日、お手玉の会の会員がテレビに出演して、お手玉の楽しさや魅力、効用などを実演を交えて、紹介しました。

お手玉の会に関わる著名人の書籍紹介



■ 宮中 雲子
(みやなか・くもこ)

『七枚のトランプ』を出版。翌年、同作品により、日本童謡協会第1回童謡賞詩集賞を受賞。平成8年、社団法人日本童謡協会から第8回サトウハチロー賞を受賞。受賞を記念して詩集『どんな音がするでしょか』を出版。お手玉を作る時の気持ちとお手玉の音の関係を詠んでいる。

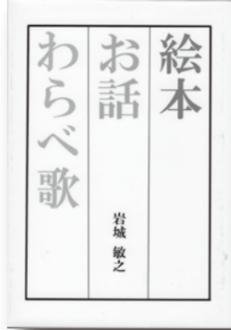
書籍名:
どんな音がするでしょか



■ 岩城 敏之
(いわき・としゆき)

子どもの遊びの環境や、玩具・絵本について、保育園・幼稚園・児童館などの職員研修や保護者向け講演の講師として、全国を飛び回っている。著書に『かっこいいおもちゃの与え方』、『子どもが落ち着ける7つのポイント』、『子育てのコツ(正・続)』(以上三学出版)など多数。

書籍名:
絵本お話をわらべ歌



■ 山本 清洋
(やまもと・きよひろ)

「トム・ソーヤーの森で遊ぼう」「伝承遊びと創作遊びの会」で、「伝承遊びと創作遊びの指導者養成講座」を主宰。主な著書:『子どもとスポーツ〜果敢なる警告〜』、『いま、子ども社会でなにがおこっているのか』(日本子ども社会学会編・北王子書房)、『子どもスポーツの意味解釈』(日本評論社)、『トム・ソーヤーからの贈り物(1)・(2)』(玉川大学出版部)。

書籍名:
トム・ソーヤーからの贈りもの



■ 森 昭雄
(もり・あきお)

平成14年に刊行された著書『ゲーム脳の恐怖』(日本放送出版協会)は、テレビゲームが脳に与える悪影響を説き、子を持つ親や教育関係者を中心に受け入れられ35万部を売り上げるベストセラーとなる。本書で提唱された「ゲーム脳」は流行語となった。ゲーム脳の効果的な改善方法として、お手玉遊びを提唱している。

書籍名:
ゲーム脳の恐怖



第17回 全国お手玉遊び大会・記念講演・シンポジウムのDVD映像収録完成

お手玉遊びの指導や各種イベントの資料としてご利用ください。



●第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会
開会セレモニー・個人戦・団体戦競技・表彰授与式など収録
DVD-60分 1枚、2000円



●森 昭雄 医学博士の記念講演収録
ゲーム依存症の恐怖「ゲーム脳はお手玉で改善できる」
DVD-60分 1枚、2000円



●シンポジウム
子どもの脳の発育と創造性の開発とお手玉
DVD-60分 1枚、2000円



日本のお手玉の会の 20周年記念誌を発行 予約を受け付けています。

日本のお手玉の会は、平成4年の設立から、今年20周年を迎えたのを機に、記念誌「お手玉」を発行しました。

記念誌は、「ぬくもりを届けたい、手から心へ」をテーマに、全大会の記録、歩み、効用、支部の紹介のほか、お手玉の歴史などを編集しています。A4版で約80ページのカラー印刷です。

頒布価格は、1500円です。

お求めご希望の方は
本部事務局まで申し出ください。

●送料は別途申し受けます。

たまちゃん通信 毎月発行

情報と
お知らせ

ぬくもりを届けたい、手から心へ……
たまちゃん通信

日本のお手玉の会本部
〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号
TEL:0897-32-0302 FAX:0897-32-0311

2012.11月
今月の
情報

サトウ家のハゼ釣り 宮中聖子

平成23年4月全国支部長会の中で支部長さんの発言で、もっと本部から「いろいろな情報が欲しい」との要望があり、昨年の5月より、「たまちゃん通信」を企画し、会員の方へ情報発信をいたしております。より多く会員の皆様へお届けできるよう送料の軽減につとめ、できる限りご自宅のFAXやEメールなどでお送りさせていただいております。ご希望の方は、ご自宅のFAX番号やメールアドレスを本部へお知らせください。特にメールは写真画像などがはっきりとご覧いただけます。

●本部メールアドレス

E-mail:honbu@otedama.jp
本部FAX番号 0897-32-0311

●ホームページでもご覧いただけます。

だれでもできるお手玉遊び指導マニュアル集ができました。

だれでもできるお手玉遊びの 指導マニュアル集【CD音楽付き】

お手玉の技術がなくても誰でもお手玉遊び指導ができる指導マニュアル集をご活用ください。



大好評

【導入編を含む5部作です。】
■導入編 ■幼児編 ■児童編 ■成人編 ■介護編
それぞれ1冊当り1500円(税込) 導入編以外はすべてCD付きです。

イラスト図解や写真で解りやすく、使いやすい

送料は別途です



指導する場合にも音があれば
雰囲気の出出もできる
導入編以外すべて、CD音楽が付いて
いますテンポはそれぞれの指導にあわ
せて編集したBGMが付いています。

BGM 編集曲 (7曲入り)



【発行・編集】 日本のお手玉の会 本部事務局

日本のお手玉の会

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号 銅夢にいほま内

TEL/0897-32-0302・FAX/0897-32-0311

E-mail:honbu@otedama.jp

ホームページ: http://www.otedama.jp